

大南の軌跡

武蔵村山市立 小中一貫校

大南学園第七小学校

学園だより NO. 10

令和3年2月1日

六年生を中心にした七小の子供たちの素晴らしさ

副校長 中山 和彦

1月中旬に床の改修工事が終わり、体育館が使用できるようになりました。フロア、そして舞台上の床が全て明るい色の板に張り替わりました。夏休みに行われた冷暖房の設置工事も併せて、体育館がとても快適に使えるようになりました。

工事を行うために、椅子や体育用具をすべて倉庫にしまっていたため、15日（金）に元通りに復旧する作業を行いました。その中でも体育館にあった全ての椅子を倉庫から舞台下に移動する作業については、6年3組の子供たちが手伝ってくれました。寒気で冷え切った椅子を手渡しでリレーしていきましたが、どの子どもとも張り切って作業をしていました。学校やみんなのためにすすんで働く姿に、最高学年としての頼もしさを感じました。

1月が終わり、年度末が近付いてきたこの時期、来年度の教育活動について様々な検討しております。五十嵐校長と今年度の教育活動を振り返る中でしみじみと感じたことは、小学校における六年生の存在の大きさです。

今年度の教育活動は、コロナ禍による休校に始まり、様々な制約がある中で行われてきました。そんな中でも着実に教育活動をすすめることができたのは、最高学年である六年生が落ち着いた雰囲気の中で一日一日の学校生活を送っていたからであると感じています。

六年生は、例年ですと入学式に参加し、一年生のお世話話し、縦割り班活動や委員会活動、クラブ活動を通してリーダーとしての自覚を高め、力をつけていきます。しかし、今年度は入学式に参加できず、また、下級生と関わる多くの機会も制限されていました。児童は、学年が六年生になったから最高学年としての行動ができるようになるわけではありません。学習、行事、日々の様々な活動を通して、最高学年としての自覚をもち、行動が

できるようになるのです。そういった意味では、とても難しい年でしたが、今年の六年生は見事にそのハンデを乗り越え、大きく成長してきました。

6年1組は、いつ授業参観に行っても濱畑先生と子供たちの笑顔が教室にあふれています。どの教科の学習でも、男女問わず意見を伝え合ったり、仲良く活動したり、お互いの考えや気持ちを尊重しながら、共に学ぶことを楽しんでいる様子が伝わってきます。

6年2組の子供たちは、しっかりと基礎学力を身に付けるよう努力を重ねています。3学期初めに行った復習の漢字の50問テストでは、満点が18人、平均97点という素晴らしい成績を残しました。一人一人が学校で、また家庭で学習にすすんで取り組み、着実に力をつけています。

6年3組の子供たちは前述した通り、学校全体の仕事をすすんで手伝ってくれています。ほかにも図書室の本の移動、保護者会の椅子並べなど、学校全体のために何かあると気持ちよく働いてくれるのが素晴らしいです。

もちろん、他の学年でも素敵な場面にたくさん出会います。ある五年生の女の子は、図工の学習の後友達が使ってしまったいなかった椅子を全てきちんと机の下に入れて教室に帰っていきました。担任に話を聞くと、そのお子さんはいつでもそのようにしているそうです。

また、どんなに寒くても元気に校庭を走り回る子供、朝会うと、きちんと止まって「おはようございます」と気持ちのよい挨拶をしてくれる子供。学校の中で本当にたくさんの素敵な子供たちの姿に出会います。

この素晴らしい子供たちが思う存分活動できるよう、学校として、児童の健康、安全に配慮した取り組みを一つ一つ着実に行って参ります。